

ひとは誰でも立ち直ることができる けど、ひとりでは立ち直れない

「更生保護」を活動の主としている更生保護女性会は、犯罪を犯した人たちが、自分らしく生きていけるよう立ち直りの支援活動をしてきました。

昨年の春、若草プロジェクトの瀬戸内寂聴さんや村木厚子さん、そして大谷恭子さんに出会い、困難を抱える少女たちがたくさんいることを知りました。

幼い頃からの虐待や性被害などで心に傷を抱える少女たち、貧困やDV家庭の中で自己肯定感を得られず育ってきた少女たち、いじめやネット社会のなかで孤独に苛まれている少女たち。一旦レールを外れると自分らしく主体的に生きて行く制度がない社会に暗然たる気持ちと同時に、まずは私たちが社会を変えていかなければならないことに気づきました。

「死にたい」「助けて」彼女たちのSOSの声を、地域が受け止めて寄り添う社会を作るためには、信頼できる大人をひとりでも増やさなければなりません。

シンポジウムのチラシを手にとってくださった皆さん、少女たちのSOSを聴いてください。そして、彼女たちが希望を持って前向きに生きるためには、何が必要なのか、地域でできることは何なのか。

一緒に考えていきましょう。



大谷 恭子

東京都出身。1950年生。
若草プロジェクト代表理事。1978年弁護士登録。
日本女子大学非常勤講師、内閣府障がい者制度改革推進会議委員。「永山子ども基金」代表。



中村 すえこ

埼玉県出身。1975年生。15歳でレディース総長になるなど、自らの半生を綴った「紫の青春 恋と喧嘩と特攻服」で2008年作家デビュー。のち映画化され全国上映される。少年院出身者らによる社会復帰の支えになるためNPO法人セカンドチャンス！創設メンバー。現在子育てをしながら講演活動や少年院慰問などを続ける。



島田 ゆか

大分県出身。少女時代に生きづらさを経験したことがきっかけでダルクに関わるようになる。6月に和歌山市内に薬物依存からの回復を目指す女性が子どもと一緒に住める施設「ロイズホーム」を開設。和歌山ダルク代表理事。臨床心理士。



今井 紀明

北海道出身。1985年生。高校生のとき医療支援NGOを設立しイラクへ渡航。その際、現地の武装勢力に人質として拘束され、帰国後「自己責任」の言葉のもと大きなバッシングを受ける。2012年にNPO法人D×Pを設立。通信制高校の高校生向けのキャリア教育事業を展開し、「ひとりひとりの若者が自分の未来に希望を持てる社会」を目指す。

少女と若い世代の女性に寄り添う 若草プロジェクト in Kyoto

孤立から自立へ
若草ハウスをつくりたい！

安全・安心な居場所をつくり
少女たちに「衣・食・住」と
「関係性」を提供したい。



プロジェクトに賛同し、一緒に活動したり
財政的な支援をしてくださる方々を、募集
しています。

熱い思いがあれば、どなたでも参加いただけ
ます。

お問合せは、京都府更生保護女性連盟事務局まで

京都市上京区岡松町255 京都保護観察所内
電話075-441-5141 メール kyotokoujoren@gmail.com

vision
すべての少女たちが自分らしく心豊かに生きられる社会

mission
少女たちにとって信頼できる大人を増やし、社会の受容性を高めることで少女が孤立しない仕組みを作る

少女たちの**生きづらさを取りのぞく**（入り口を塞ぐ）
さまざまな年代の人、さまざまな環境の人と話す場をつくることで多様な価値観を育てます。
自分を肯定し大切に思う心を育てます。

少女たちを**逆境の波に飲みこませない**（出口支援）
貧困や虐待、DVなど困難な状況にいる少女たちへ支援の手が届くようネットワークを強化します。
少女たちがいかなる必要衣・食・住を提供します。

少女たちが**信頼できる大人を増やす**（普及啓発）
シンポジウムや講演会などを通して理解を深めます。
地域社会で見守る目をつくり、少女たちとの関係性を取り戻します。